

## 逆風の中で 学んだこと



衆議院議員  
あべ俊子

謹んで新春のお慶びを申し上げます。また栃木県看護連盟の皆様にはいつも温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年は未曾有の大震災という試練の中、大変な国難の一年となりました。その被害は計り知れないほど大きいものであり、多くの国民の皆様に大変なご心労、ご苦労をおかけしていることを心苦しく感じた一年でもありました。新しい年を迎えるにあたり、この一年、この国が復興への道のりを一歩ずつ着実に歩んでいけるよう、国政の場で精一杯努めてまいる決意をあらたにしています。

昨年は国会では、自民党の国会対策委員会副委員長を拝命し、また厚生労働委員会・文部科学委員会をはじめとした4つの委員会に身を置いて活動いたしました。所属の委員会だけではなく、農林水産・財務金融・消費者問題など様々な委員会で質問の機会をいただけたことから、会期中は地元岡山との往来も含めて毎週多忙を極めましたが、看護以外の分野を広く学ぶことで知識だけでなくものの見方や考え方も広がり、そういう経験が今後看護界のために必ず役立っていくものと確信しています。

これから復興には、政界全体がまとまなくては進まないこともあります。常に国民の皆さんの暮らしの安定を第一に考え、政治と政局とを切り分けて国会運営に臨む姿勢を崩さず、今後も行動していきたいと思います。

そして看護職の皆さんにも現場が良い方に変わったと少しでも実感していただけるよう、今年も変わらず精一杯頑張ってまいります。どうか本年も、皆様のお声をお聞かせ頂き、ご指導ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

## 不安要素の多い 今だからこそ



参議院議員  
高階 恵美子

栃木県看護連盟の皆様に、謹んで年始のご挨拶を申し上げます。いつも変わらぬ皆様方のご尽力に対し、改めて衷心より感謝申し上げます。

昨年を振り返ってみると、東日本大震災をはじめ、豪雨による被害など甚大な災害に見舞われた年となりました。これらの災害は、多くの悲しみや苦難をもたらしましたが、一方で社会とのつながりの重要性やその価値観、命の大切さを再認識する機会ともなりました。かねてより、看護職は命を守り、社会のつながりの中で人々に寄り添って参りましたが、今このような時代だからこそ、頼れる専門職として、看護職に対する信頼や期待が高まっていることだと思います。

どのように政局が不安定な状況にあろうとも、国民の生活は安定したものでなければなりません。今年は、診療報酬・介護報酬の見直し、社会保障と税の一体改革など社会保障制度に関して大きな動きがある年です。社会保障の担い手として、看護職の皆様が活き活きと活躍していくことができるよう、将来をしっかりと見据えて活動をしてまいります。これからも引き続きご指導ご支援を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。